

SUPER GT 2025 SERIES

ROUND 7

AUTOPOLIS REPORT




RESULT

予選 **10th**

Q1: 篠原 拓朗 (1'45.719)
Q2: ケイ・コッツォリーノ (1'46.342)

決勝 **16th**

ベストラップ
1'46.981 / ケイ・コッツォリーノ

DRIVER RANKING **16th** (34points) TEAM RANKING **14th** (53points)



ケイ
コッツォリーノ
Kei Cozzolino 



篠原 拓朗
Takuro Shinohara 

難コンディションに苦戦し、16位フィニッシュ。
最終戦へ課題を持ち帰る一戦に。

2025年 SUPER GT 第7戦は10月18~19日、大分県のオートポリスで開催された。阿蘇の山間に位置するこのサーキットは天候の変化が激しい事で知られ、この週末も予選・決勝共に難しいコンディションに見舞われた。そんな中、PONS FERRARI 296 は予選で着実に Q2 へ進出し、決勝 10 番手スタートを獲得。決勝では序盤を落ち着いて走行したものの、中盤のセーフティカー導入で流れを崩し後退。後半はケイ・コッツォリーノが追い上げを図ったがポジションを取り戻すには至らず、16 位でフィニッシュ。悔しい結果となったが、予選での判断力と決勝での冷静な対応は収穫。最終戦での巻き返しを目指す一戦となった。




DATA

開催サーキット: AUTOPOLIS (1周 4.674m)
日時: 10月18日(土) / 19日(日)
天候: 18日: 曇り時々雨 / 19日: 曇り
来場人数: 26,000人 (18日: 10,000人 / 19日: 16,000人)

AUTOPOLIS
3hours Race



予選 / QUALIFYING

天候:曇り時々雨 / 気温:24℃
路面温度:31℃

変化する天候に翻弄されるも、確実にQ2進出。 難コンディションで粘りの12位

10月18日(土)、SUPER GT 第7戦が大分県・オートポリスで開催された。阿蘇の山間に位置するこのサーキットは標高が高く、天候の変化が激しいことでも知られる。この日も曇り空から小雨が降り始め、路面はドライながら非常に難しいコンディションでの予選となった。

午前の公式練習は不安定な天候の中で進行。PONOS FERRARI 296はドライとウェット双方の状態を想定し、セッティングを入念に確認。午後の予選を前に、チーム全体でタイヤ戦略とコース状況の見極めに集中した。

午後の予選では「WET 宣言」が出され、小雨が断続的に降るなかで Q1 がスタート。Q1 B 組を担当した篠原拓朗は、雨が強まる前に早めのアタックを敢行。1分45秒719を記録し、グループ9位でQ2進出ラインに滑り込んだ。

続く Q2 はケイ・コッツォリーノがステアリングを握る。Q1 よりも路面がウェットになり、ドライタイヤ勢とウェットタイヤ勢が入り混じる状況でのセッションとなった。

ケイ・コッツォリーノは果敢にアタックを続け、1分46秒342をマーク。12位でチェッカーを受けた。他車のペナルティにより最終的に10位で決勝をスタートすることになった。

難しいコンディションの中でも確実に Q2 へ進出し、判断力と安定感が求められたオートポリスの予選で、上位をうかがえるポジションを確保した PONOS RACING。翌日の決勝では、積み重ねたデータを武器に上位進出を狙う。



DRIVERS' COMMENTS

ケイ・コッツォリーノ

 Kei Cozzolino

朝の公式練習で、持ち込みのセットアップを大きく外していたことがわかり、そこから巻き返したと考えると、10番手という結果で予選を終えられたのは素直に良かったと言う印象です。Q1を担当した篠原選手も、セットアップを詰めながらのアタックにも関わらず、Q2へとバトンを繋いでくれ、とても助かりました。また、午前の公式練習から予選まで一緒にセットアップを詰めてくれたメカやエンジニアにも感謝したいです。もちろんトップ10を取れなかったのは悔しいですが、持ち込んだタイヤが今日の様に気温や路面温度が上がり切らないコンディション、ちょっと濡れているダンプコンディションでは少し不向きなタイヤだったと言う事も加味すると、この結果は悪くなかったんじゃないかと思っています。我々は一発のタイムよりも決勝のことを考えて、今回車も作ってきたので明日のレースに期待したいと思います。



篠原 拓朗

 Takuro Shinohara

多くの課題があったかなり難しい状態からのスタートでしたが、ケイ選手をはじめチーム全員で車のセットアップを詰めることができ、何とかQ1を突破することができましたし、個人としてもまずは良かったと思っています。しかし目指すところに対してまだまだ足りてない状態だと思うので、自分も明日の決勝はしっかりと良い仕事をし、良い結果を持ち帰れるように頑張りたいと思います。



決勝 / RACE

天候:曇り / 気温:22℃
路面温度:25℃

厳しい展開の中、粘りの走りで完走。 16位フィニッシュ

10月19日(日)、SUPER GT 第7戦が大分県・オートポリスで開催された。山間部に位置するサーキットは天候の変化が大きく、この日も曇り空のもと、気温22℃/路面温度25℃と穏やかながらも難しいコンディションでのレースとなった。会場には約1万6000人の観客が詰めかけ、熱い戦いに注目が集まった。

決勝は10番手からのスタート。スタート前のグリッドワークでも細かなセッティング調整を行い、現状で可能なすべての対策を施して臨んだ。ファーストドライバーは篠原拓朗が担当。オープニングラップではGT500クラスがT1でスピンする波乱の幕開けとなったが、PONOS FERRARI 296は安定したスタートを決め、ポジションをキープ。序盤は堅実なペースで周回を重ねた。

しかし10周目、GT500車両のクラッシュによりフルコースイエロー (FCY)、続いてセーフティカー (SC) が導入。レース再開後は思うようにペースを上げられず、20周時点で17位まで順位を落とす展開となった。

篠原は路面状況を見極めながら37周まで粘り強く走り切り、

ケイ・コッツォリーノにステアリングを託した。

チームはケイ・コッツォリーノのダブルスティントを選択。ピックアップに苦しみながらも安定したペースを維持し、終盤まで懸命の走行を続けた。レースはその後大きな波乱もなく進行し、PONOS FERRARI 296は16位で2時間30分を走り切り、チェッカーを受けた。

難しいコンディションとセーフティカー導入による流れの乱れの中でも、チームは冷静な判断と確実な対応でレースを完走。悔しい結果ではあるが、次戦の最終戦に向けて課題を明確にし、巻き返しへの糧となる一戦となった。



DRIVERS' COMMENTS

ケイ・コッツォリーノ

 Kei Cozzolino

非常に残念な結果になってしまいました。チームとしてやれることは全部やりました。決勝ではピックアップに苦しめられ車が走れる状況ではなかった。

原因をタイヤメーカーと検証して、最終戦に臨みたい。最終戦は思い切りレースできるように準備していきます。



篠原 拓朗

 Takuro Shinohara

チーム一丸となって今できるベストは尽くしたと思いますが、ポイントにも届かず内容的にも非常に悔しい結果となりました。

最終戦までは時間もあまりないため、その中でできることをやって、最終戦を笑顔で終わられるように頑張りたいと思います。
応援ありがとうございました。





DIRECTOR'S COMMENT



チーム総監督

辻子依旦

Yurikatsu TSUJIKO

非常に悔しい結果となってしまいました。チームとして出来ることは全てやり切ることができましたが、タイヤが全く機能せず他車と争うことさえできませんでした。同じタイヤの車の中では最高位で終わることができたので車やドライバー自体はいい位置にいるのだと思います。次戦が今シーズン最終戦となります。良いタイヤを準備してもらうことはもちろんのこと、チームとしてミスなく最大のパフォーマンスを出せるようにしっかりと準備したいと思います。

PARTNERS

O U R O
ブランド高価買取店

SEVENS

 Extreme Fight Game
RISE
 **IBG Media**
 **A CLINIC**

READ
PROJECT OCEAN